

「H A N D A市民討議会 2023」報告書

H A N D A市民討議会実行委員会

令和6年1月

目 次

1. 実行委員長あいさつ	1
2. 「H A N D A市民討議会 2023」について	2
(1) 概要	2
(2) 運営組織	2
3. 運営実績について	3
(1) テーマ選定	3
(2) 参加者選定	3
(3) 事前勉強会	3
(4) 討議会	4
4. 結果と提言	5
(1) グループ討議の結果	5
(2) 提言内容	1 7
5. 「H A N D A市民討議会 2023」の次回に向けた検討事項	1 9
(1) アンケート結果	1 9
6. 実行委員感想	3 0

資料 1. タイムスケジュール

資料 2. 事前勉強会資料

資料 3. 参加者アンケート様式

1. 実行委員長あいさつ

本年度、半田市として初めての試みとなる「市民討議会」を開催しました。

H A N D A 市民討議会は、無作為抽出による公募に承諾し参加して下さる市民の皆様が、必要な情報を等しく受け、地域問題など政策課題を討議のうえ合意形成の為された意見を市政に反映させるための新たな広聴手法として、2021 年度よりその開催を目指し関係各諸団体との調整をスタートしました。

2022 年度には開催方法やテーマ等を一緒に検討する市民委員を公募し、半田市・（公社）半田青年会議所・市民委員とで「準備委員会」を立ち上げ、多くの方に時間を割いていただき、そして本年度は準備委員会から引き続き「H A N D A 市民討議会実行委員会」を組織し、会議を重ね、ようやく開催することが出来ました。

当日は大変多くの、また幅広い世代の市民の皆様にご参加賜り、気軽に楽しみながらも充実した内容の討議をしていただくことが出来ました。討議会での提案につきましては、実行委員会で提言書として取りまとめ、半田市長へ提出するとともに、市民の皆様にご公表してまいります。

この討議会が、市民参画機会の一つとして、また、自分たちのまちを自分たちで良くしていくという住民自治意識の醸成や関心を高めるきっかけになっていただけると幸いに存じます。

本事業の開催に至るまでに、事務局として多大なご尽力をいただいた半田市市民協働課の皆様、広いネットワークや培った経験から様々な情報を提供いただいた（公社）半田青年会議所様、共に考え議論した実行委員の皆様にご理解とご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

そして、この市民討議会にご参加いただきました市民の皆様にご心より厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

H A N D A 市民討議会実行委員会委員長

松石 陽介

2. 「H A N D A 市民討議会 2023」について

(1) 概要

「H A N D A 市民討議会 2023」は、市民と行政が地域に関する情報を共有し、地域が直面している課題を「みんなの課題」と認識し、市民と市民、市民と行政と一緒に解決策を考え、市政に反映することを目的とした新しい仕組みとして、半田市では令和 5 年度に初めて実施した取り組みである。

これまで市政に参加する機会の少なかった市民から意見を抽出し、市民参加のすそ野を広げるため無作為抽出で参加者を募り、参加者がテーマに対する基本的な知識を平等に持ち、討議に参加できるよう、事前勉強会で討議会の趣旨やテーマについて情報提供を行い、討議を実施した。

また、討議会実施後には、討議内容を報告書として取りまとめ公表するとともに、市民が考えた地域の課題解決策として市政へ提言する。

(2) 運営組織

市民討議会は行政主導ではなく、市民が主体となり、公平・公正・中立な市民討議会とするため、行政は中立的な立場で関わり、市民等で組織する実行委員会形式で運営を行う。

H A N D A 市民討議会実行委員会は、地域課題の解決に繋がる取り組みを実践し市民討議会を開催している先進地域の青年会議所とのネットワークがあり、実績を含めノウハウ等が共有できる（公社）半田青年会議所を中心として、公募市民委員等と半田市で組織した。

また、（公社）半田青年会議所と半田市とで「H A N D A 市民討議会に関する協定」を締結し、相互協力して協働で取り組んでいくこととした。

◆実行委員会活動実績

第 1 回 6 月 8 日：委員委嘱、実施方法について

第 2 回 6 月 27 日：テーマの設定について

第 3 回 7 月 25 日：討議会開催日、討議タイトル及びテーマの選定、参加者募集、
情報提供について

第 4 回 9 月 6 日：参加者の追加募集、事前勉強会の内容、討議方法について

第 5 回 9 月 25 日：事前勉強会、討議会の内容、討議会の実施方法について

第 6 回 11 月 4 日：事前勉強会

第 7 回 11 月 25 日：討議会

第 8 回12月14日：報告書、提言書、改善事項について

第 9 回12月27日：報告書、懇談会について

第10回 1 月30日：報告書について、提言書提出、懇談会

3. 運営実績について

(1) テーマ選定

討議テーマについては、本市の課題を共有した施策の提言につなげるため、課題に即した市民が関心を持ちやすいものとし、実行委員会で協議のうえ選定することとする。

令和 5 年度については、ゼロカーボンシティ宣言都市である本市として、「ゼロカーボンシティはんだビジョン」の取組の一つである「市民・事業者とともに醸成していく」方針を推進するため、行政や事業者任せではなく、市民が自分たちにもできる、新たな取組アイデアなどを討議することで、市民の関心を高め、積極的に楽しみながら実践できる市民を増やすことを目的とし、テーマを選定した。

また、ゼロカーボンという大きなテーマでは討議内容がわかりづらいため、討議内容の趣旨に基づき、討議会に対して市民に興味を持ってもらい、討議内容がイメージしやすいタイトルとした。

◆テーマ

『このまちの未来は 私たちが守る

～みんなで考えよう、楽しみながらできる持続可能な取組～』

地球温暖化防止に向けた、温室効果ガス実質排出量ゼロを目指した脱炭素の取組（ゼロカーボン）について、積極的に楽しみながらできることを考えよう！

(2) 参加者選定

半田市内在住の 16 歳から 69 歳の約 3,000 人の方に無作為抽出で案内を送付し、56 人から参加承諾があり、年齢、性別等を考慮し 50 人を選定した。

当日の参加者は、事前勉強会 44 人、討議会 42 人で、両日参加は 39 人となった。

(3) 事前勉強会

◆日時・場所

令和 5 年 11 月 4 日（土）9 時 30 分～12 時 30 分：半田市役所大会議室

◆実施内容

事前勉強会では、参加者がテーマに対する基本的な知識を持ち、討議に参加できるよう、専門家や半田市環境課職員からテーマに関する必要な情報提供を行った。（資料 2 参照）

【情報提供①】

「地球はどうなっているのか」千頭聡教授

【情報提供②】

「半田市ではどう取り組もうとしているのか」

「「ゼロカーボンシティはんだビジョン」の概要」

半田市環境課職員

【情報提供③】

「ゼロカーボンシティ達成に向けて大切な事」千頭聡教授

【ワークショップ】

「ゼロカーボンについて自分たちで取り組めること」千頭聡教授

◆情報提供者

- ・千頭聡（日本福祉大学国際福祉開発学部特任教授。環境審議会、はんだ環境パートナーシップ会議の会長として、半田市の環境について関わっている。）
- ・片山高也（半田市環境課職員）



（４）討議会

◆日時・場所

令和５年１１月２５日（土）９時３０分～１６時：半田市役所大会議室

◆グループ構成

円滑な討議を実施し、参加者の意見集約や合意形成をするために、少人数のグループごとに討議を行い、各グループにファシリテーターを配置した。

全体ファシリテーターを１人、１グループは年齢構成を考慮した参加者約６人ずつ、ファシリテーターを各グループに１人配置し、８グループ作った。ファシリテーターについては一般社団法人SDGs designが担った。

◆討議の方法

【討議①】

「私一人でも取り組めること」「家庭で取り組めること」

「ご近所（コミュニティ）で取り組めること」「市全体で取り組めること」「もっと広域で取り組めること」について、付箋に書き出した後グループ内で発表し、解決したい課題をグループで決めた。

【討議②】

「課題解決するために、どうしたらよいか」について、「みんなの意識が向くようにするにはどうしようか」「楽しく取り組んでもらうためにはどうしたらよいか」の２つの視点で考え、付箋に書き出した後グループ内で発表し、政策をグループ内で決めた。



【討議③】

討議①、②で決めた課題や政策をグループ内で模造紙にまとめていき、発表方法を決めた。

【発表】

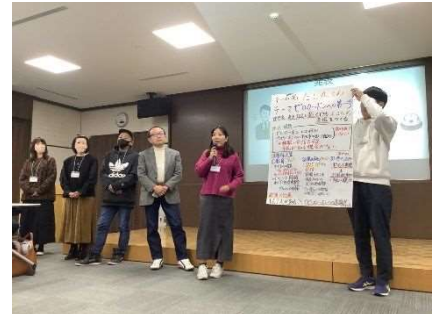
グループごとに討議結果について 3 分で発表した。

【投票】

1 人 3 票とし、必要だと思う政策に投票を行った。3 票は同じグループにまとめても分けてもよいが、自分のグループには最大 1 票までとした。

【結果発表】

投票数を各グループで発表し、上位 3 位を決定した。



4. 結果と提言

(1) グループ討議の結果

討議①まとめ

・私一人でも取り組めること ・家庭で取り組めること ・ご近所で取り組めること ・市全体で取り組めること ・もっと広域で取り組めること ⇒課題をみつける	【移動】 ・高速道路に自転車道をつくる ・自転車にのる ・カーシェア ・バスの普及 ・公共交通機関の充実と低価格化、割引 ・半田市の施設に公共交通機関を使って来てもらう ・なるべく徒歩 ・電車に乗る ・電気自動車、水素自動車に乗る ・渋滞緩和 ・公共交通機関は運賃がかかる、不便 ・高齢者の免許返納のため、タクシーの料金を無料にする ・電気自動車利用の補助を出す 【ごみ減量】 ・ごみの削減、分別（リサイクル、エコバック、フリマアプリ） ・ごみを細かくしてゴミ袋の使用を減らす ・生ごみを畑に埋める
---	---

	・生ごみの肥料化で家庭菜園や事業への活用 ・ペットボトルを買わない ・マイバックを使う ・フードロスをなくす ・過剰包装をなくす ・長く着られる服を選ぶ ・エコクッキング 【節電】 ・なるべく1 部屋で生活する ・暖房をできるだけつけない ・お風呂に入るタイミングを合わせる ・なるべく電気を使わない（早寝早起き） ・無駄なアイドリングを減らす ・電力会社からの電気を使うのをやめる ・家電省エネ化、エコ家電 ・夜間電力利用、市で大型蓄電機を導入 ・ライトダウン ・節電の日を設定（市全体で月 1 日程度） ・エコ住宅 ・LEDの使用 ・エレベーターを使わない 【意識】 ・ゼロカーボンシティはんだの周知 ・討議会の様な機会をもっと増やす ・常に意識し、エコなものを選択する ・家族や会社で話し合う機会をつくる 【リサイクル】 ・不用品をいる人にあげる ・リユース品の再利用 ・リサイクルバザー 【その他】 ・CO2 排出量が見える化 ・自給自足
--	---

	・マイバック推進キャンペーン、地域のスタンプカードなど ・地域で清掃活動 ・ごみステーションの充実 ・季節の食材を買う、地産地消 ・配達を1回で受け取る ・再生可能エネルギーの普及 ・発電の仕組みを増やす ・地元企業との連携 ・楽しめるエコ施設の建築 ・新技術開発 ・ゼロカーボンを推進する製品等に補助 ・緑を増やす ・まちをきれいにする ・知多半島全体で取り組めることを考える
--	--

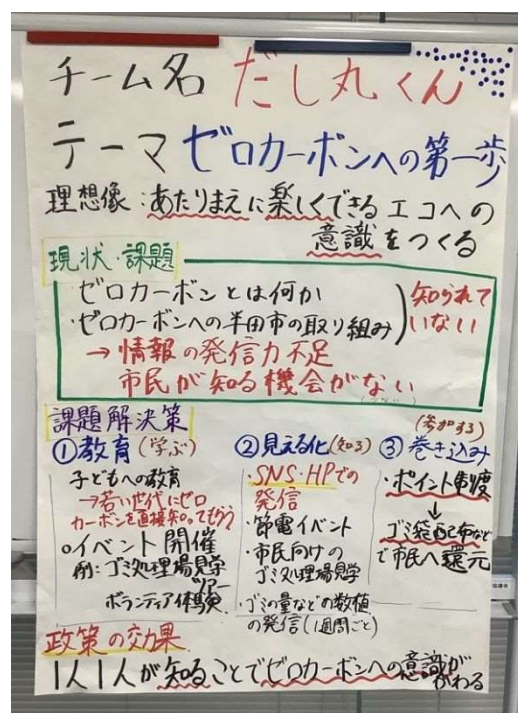
討議②まとめ

・課題解決するためにどうしたらよいか ・みんなの意識が向くようにするにはどうしたらよいか ・楽しんで取組んでもらうにはどうしたらよいか。	【移動】 ・コミュニティバス等公共交通機関の充実（時間、便数、バス停を増やす） ・特典をつける（高齢者送迎ポイント） ・電動キックボードの利用 ・公共交通機関のアプリで情報共有 ・自転車道や駐輪場の整備 ・自転車や自動車のシェア ・電気自動車、自転車の購入促進 ・電気自動車スタンド設置 ・病院をオンライン診療にする ・公園を増やしたり緑化し散歩しやすくする 【ごみ減量】 ・ポイント制度 ・ごみ袋購入履歴 ・ごみステーションでごみの状況を見える化 ・ごみ拾い大会、ごみ拾いのポイント制
--	---

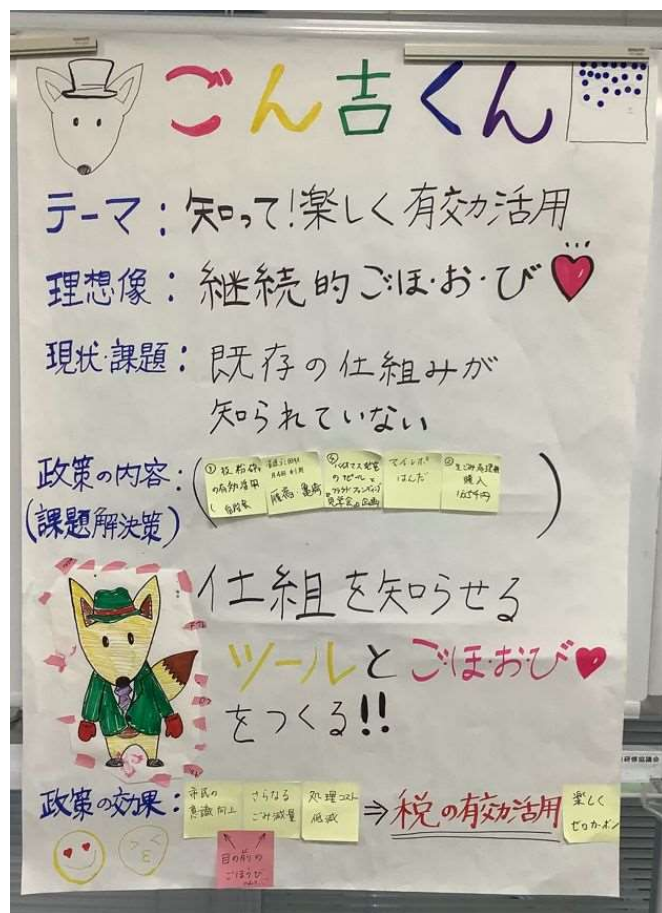
	【節電】 ・節電通知表 ・節電の日、ろうそくを楽しむイベント ・企業協賛によるポイント制度、クーポン発行 【意識】 ・インセンティブ、ポイント制度 ・子供のころからゲーム感覚で学ぶ ・学校で学ぶ場を作る 【リサイクル】 ・リサイクルツアー ・ホームページでリサイクル動画配信 【その他】 ・市役所等をモデル施設にする ・楽しく学べるイベントをする ・自然体験活動 ・SNS や公共機関で情報発信 ・取組の効果を見える化する ・気軽に参加できる話し合いの場をつくる ・地域交流の場、コミュニティをつくる、公民館を活用 ・絵本作成、マスコットキャラクター作成 ・国籍や世代、地域に関わらず取り組む ・家庭菜園を推進 ・他自治体と提携しギフト券
--	--

討議③「提案まとめ」

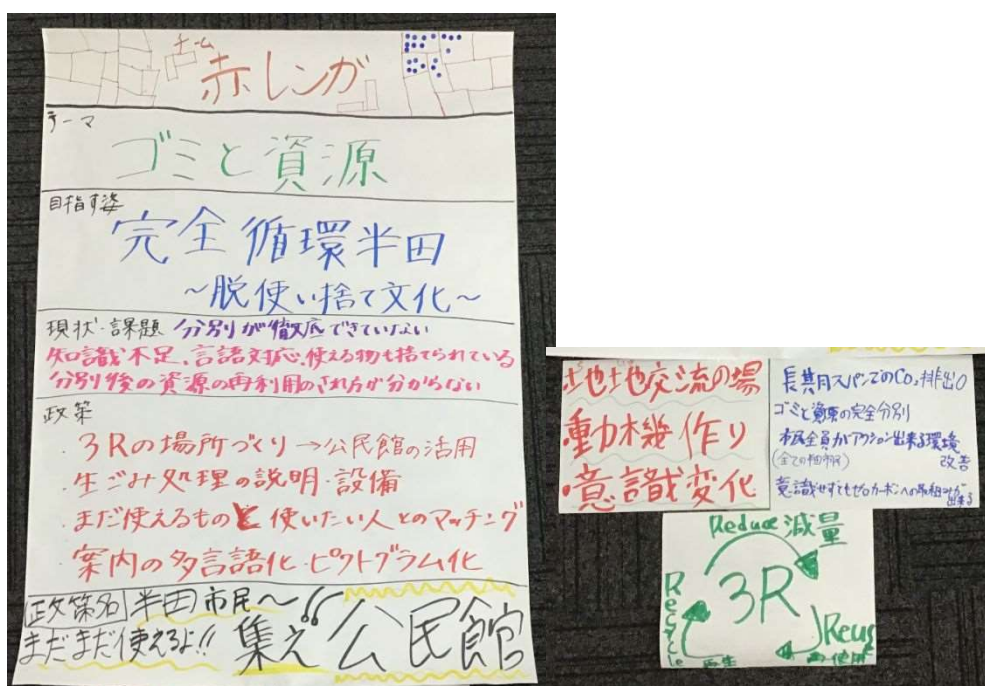
グループ名	だし丸くん
投票数	28票
テーマ	ゼロカーボンへの第1歩
目指す姿(理想像)	あたりまえに楽しくできるエコへの意識をつくる
現状・課題	ゼロカーボンとは何か、ゼロカーボンへの半田市の取組など、ゼロカーボンに対する認識が低く、情報の発信力不足、市民が知る機会がない（少ない）ことが課題である。
政策の内容 (課題解決策)	① 教育（学ぶ） 次世代を担う子ども達に教育をすることによって、若い世代にゼロカーボンを知ってもらう。また、ごみ処理場見学ツアー、ボランティア体験等のイベントを開催する。 ② 見える化（知る） SNSやホームページ等を利用した、ごみの量などの数値、節電イベントや市民向けのゴミ処理場見学などの情報発信を行う。 ③ 巻き込み（参加する） インセンティブとして、市民の活動に対してポイント制度によるゴミ袋の配布などを行うことにより市民へ還元する。
政策の効果	一人一人が知ることで、ゼロカーボンへの意識が変わる効果がある。



グループ名	ごん吉くん
投票数	21票
テーマ	知って！楽しく有効活用
目指す姿(理想像)	継続のごほうび
現状・課題	既存の仕組みが知られていない、知らせるツールが不足していることが課題である。
政策の内容 (課題解決策)	枝粉碎機の有効活用（自治区所有）、資源ごみ回収（月4回利用）、バイオマス発電のアピールとクラウドファンディング見学会企画、マイルポはんだ、生ごみ処理機購入補助金などの既存にある仕組みを知らせるツールをつくり、実際行動に移すためにインセンティブに力を入れ、ごほうびをつくる必要がある。
政策の効果	目の前のごほうびによって、市民の意識向上やさらなるごみの減量、ごみ処理コストの低減につなげることができ、税を有効活用し、楽しくゼロカーボンを目指すことができる。



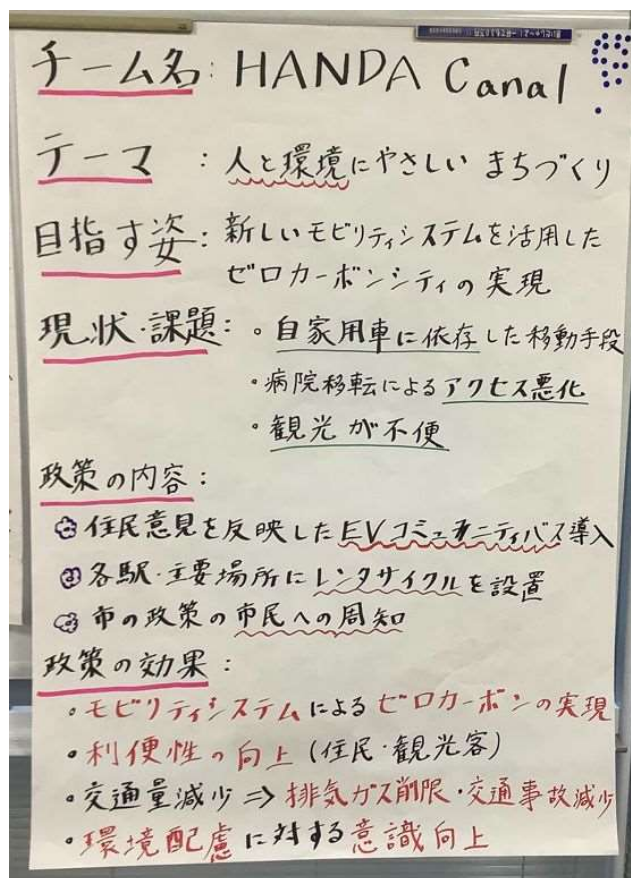
グループ名	赤レンガ
投票数	20票
テーマ	半田市民～！！まだまだ使えるよ！！集え公民館
目指す姿(理想像)	ごみと資源 完全循環半田～脱使い捨て文化～
現状・課題	知識不足や言語化対応できていないことにより、ごみと資源の分別が徹底できておらず、本来資源として活用されるべきものがごみとして焼却処分されてしまい、二酸化炭素が発生し、分別する事で資源として得られるお金が減少していること、また、分別後の資源の再利用の方法が不透明であることが課題である。
政策の内容 (課題解決策)	公民館を活用した、3R（リデュース（減量）・リユース（再利用）・リサイクル（再生））の場所づくりとして、資源回収の実施、生ごみ処理の説明、設備をつくる（生ごみを乾燥させる機械を設置し、ごみを肥料として再利用する）、まだ使えるものと使いたい人とのマッチングを行う。 また、案内の多言語化やピクトグラム化を行い、多世代、多国籍の方々との交流の場としても公民館を活用する。
政策の効果	地域交流の場や動機作り、ごみや資源に対する意識変化が期待できる。また、長期スパンでのCO2排出ゼロや、ごみと資源の完全分別、市民全員がアクション出来る環境改善、意識せずにゼロカーボンへの取組みが出来る。



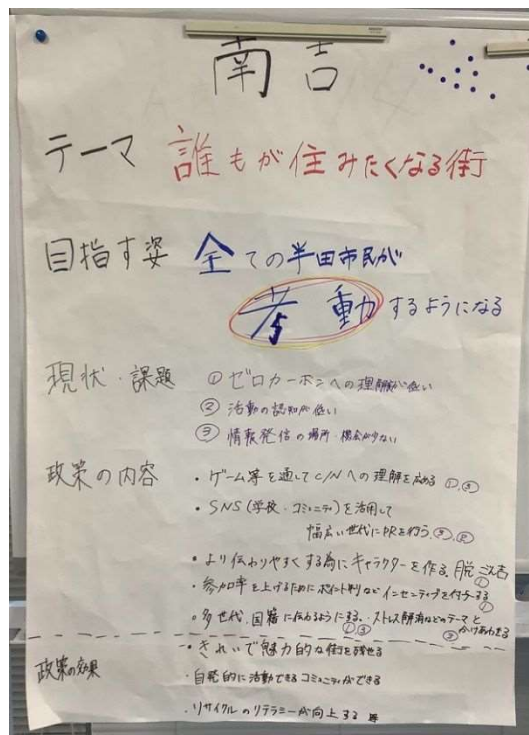
グループ名	リコリス
投票数	16票
テーマ	幸せなエコCITY半田の為に
目指す姿(理想像)	目指せ！カーボンニュートラル（エコ活動の見える化）
現状・課題	ごみの分別ができていないことや、使えるものが捨てられていることにより、ごみの排出量が多い現状であり、可視化できていない、再利用の方法が分からない、リサイクルの意識が低いことが課題である。 また、未使用時の電気の点灯が多いこと、消費電力や待機電力の過大、古い家電による電力消費、必要以上の電力使用、電力消費に対する意識の低下により、電力使用量が多いことも課題である。
政策の内容 (課題解決策)	①ごみの排出量 マイナンバーカードを利用してごみ袋の購入履歴を管理し、少なければポイント還元を行う。 ②電力使用量の少ない家電の購入時にポイントを還元する制度をメーカーに導入してもらう。また、ハロゲンをLED化することでコスト低減ができる。
政策の効果	ごみや電力使用量を減らしてカーボンニュートラルを目指す。 目標を見定め、楽しんでエコ活動をするため、環境意識の定着、ポイント制での見える化、情報の開示、ポイント還元の財源の確保をし、エコ活動の予定と結果を比較し次につなげ対応していくことで政策の効果が期待できる。



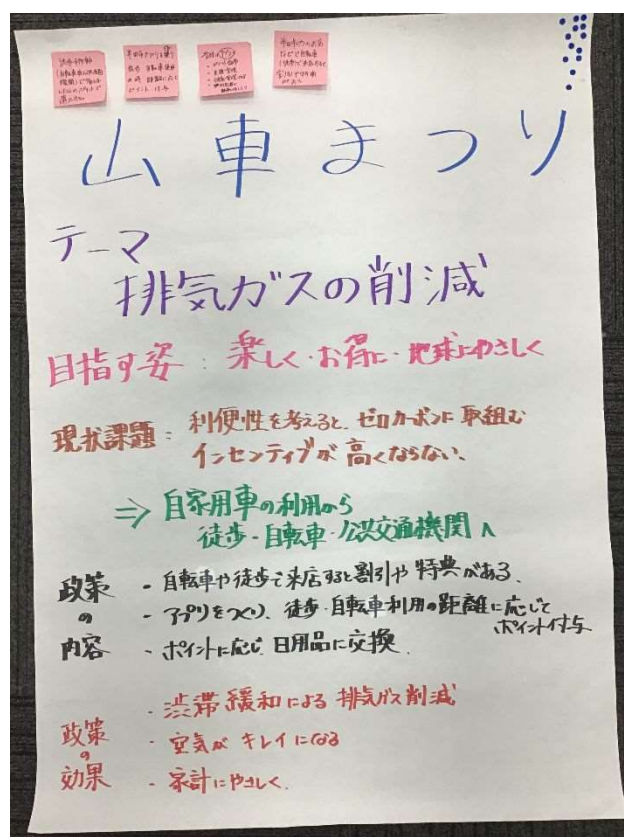
グループ名	HANDA Canal
投票数	16票
テーマ	人と環境にやさしいまちづくり
目指す姿(理想像)	新しいモビリティシステム（公共交通機関）を活用したゼロカーボンシティの実現
現状・課題	移動手段を自家用車に依存しており、病院移転によるアクセス悪化や観光の不便さが課題である。また、高齢者の免許返納への躊躇につながり、交通事故の増加が考えられる。
政策の内容 (課題解決策)	住民の意見を反映したEVコミュニティバスを導入する。 また、観光を便利にするために各駅・主要場所へのレンタサイクルの設置や、市の政策を市民に周知する。
政策の効果	モビリティシステムによるゼロカーボンの実現や、住民や観光客の利便性の向上、交通量減少による排気ガス削減や交通事故の減少、さらに環境配慮に対する意識の向上も期待できる。



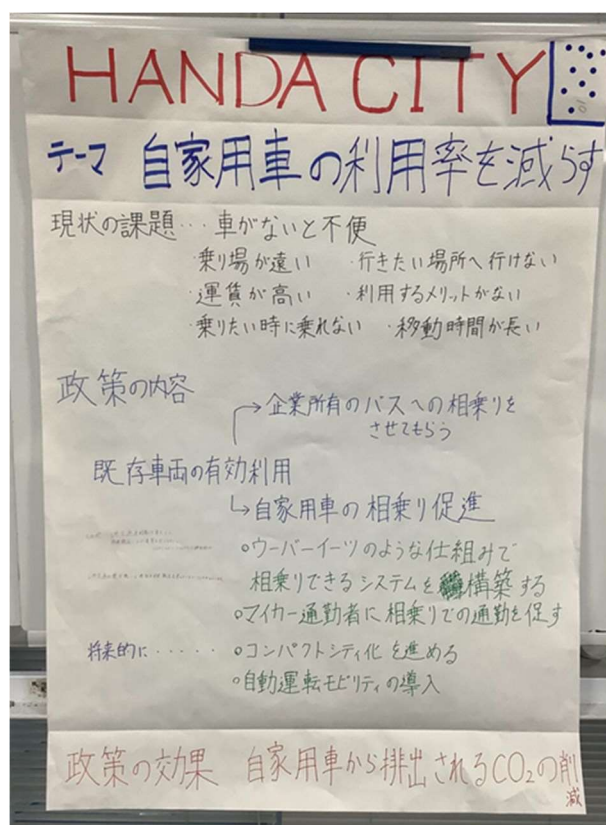
グループ名	南吉
投票数	14票
テーマ	誰もが住みたくなる街
目指す姿(理想像)	全ての半田市民が「考動」することになること。 考動とは、考えるだけではなく、しっかりと行動することにより実現させることを重視したい。
現状・課題	ゼロカーボンへの理解が低いこと、活動の認知度が低いこと、情報発信の場所・機会が少ないことが課題である。
政策の内容 (課題解決策)	ゲーム等の楽しいコンテンツを通してカーボンニュートラルへの理解を広め、SNS（学校・コミュニティ）を活用して幅広い世代にPRを行う。また、より伝わりやすくする為にマスコットキャラクターを作る（脱ごん吉）。 ゲーム等への参加率を上げるためにポイント制などインセンティブを付与したり、多世代・多国籍に伝わるようにストレス解消や健康増進などのテーマとかけあわせる。
政策の効果	きれいで魅力的な街を残し、自発的に活動できるコミュニティや個人の意識を高めることができる。また、リサイクルのリテラシーが向上する。



グループ名	山車まつり
投票数	13票
テーマ	排気ガスの削減
目指す姿(理想像)	楽しく・お得に・地球にやさしく
現状・課題	エコに対する意識をもっている行動に移せない現状があり、利便性を考えると、ゼロカーボンに取り組むインセンティブが高くないことが課題である。
政策の内容 (課題解決策)	自転車や徒歩で来店すると割引や特典が受けられる、アプリをつくり徒歩や自転車利用の距離に応じてポイントを付与する、ポイントに応じ日用品に交換できるという政策により、自家用車の排気ガス削減のために、自家用車の利用から徒歩、自転車、公共交通機関への切り替えを推奨する。
政策の効果	渋滞緩和による排気ガス削減効果が期待され、相乗効果として空気がキレイになり、家計にもやさしいという効果も生まれる。



グループ名	HANDA CITY
投票数	10票
テーマ	自家用車の利用率を減らす
目指す姿(理想像)	自家用車から排出されるCO ₂ の削減
現状・課題	移動手段の中で自家用車から排出されるCO₂が1番多い現状がある。 車がないと不便であり、自家用車以外の移動手段では乗り場が遠い、行きたい場所へ行けない、運賃が高い、利用するメリットがない、乗りたい時に乗れない、移動時間が長いといった課題がある。
政策の内容 (課題解決策)	企業所有バスへの空き時間活用や相乗りをさせてもらう等、既存車両の有効利用や、ウーバーイーツのような仕組みで相乗りできるシステムを構築したり、マイカー通勤者に相乗りでの通勤を促す等、自家用車の相乗りを促進する。 また、自動運転モビリティを導入することにより、コンパクトシティ化を進める（駅、病院の近くに集合住宅建設や、特区のような扱い）
政策の効果	自家用車から排出されるCO ₂ を削減することができる。



（２）提言内容

討議の結果について、グループごとの提案の投票結果を考慮して、上位３位の提案を基に次のとおり提言として取りまとめ、令和６年１月３０日に半田市長に対し提言した。



(写)
半田市政に関する提言書

令和 5 年 11 月 25 日に開催いたしました「H A N D A 市民討議会 2023」において
討議された意見等を取りまとめ次のとおり提言いたします。

討議テーマ

『このまちの未来は 私たちが守る』～みんなで考えよう、楽しみながらできる持続可能な取組～
地球温暖化防止に向けた、温室効果ガス実質排出量ゼロを目指した脱炭素の
取組（ゼロカーボン）について、積極的に楽しみながらできることを考えよう！

課題整理

ゼロカーボンシティはんだを達成するための課題を次のように考えています。

- ・ゼロカーボンに対する認識が低く、半田市の既存の取組みが知られていないこと
- ・情報の発信力不足によって、市民が知る機会がないこと
- ・知識不足などにより、ごみの分別が徹底できていないため、資源として活用できるものが
捨てられていること

ゼロカーボンやごみの分別に関して市民の意識変化や行動力を向上させることで、市民
全員が行動できる環境改善を推進し、ごみの減量や処理コストの低減によるゼロカーボン
達成につながると考え提言します。

1. 市民への参加の促し

ゼロカーボンへの行動につなげるため、市民の取組に対しポイント制度による資源回収
ごみ袋の配布を行うなど、市民への参加を促す。

2. 子どもへの教育

次世代を担う子どもたちに教育をすることで、ゼロカーボンについて知ってもらう。また、ボ
ランティア体験やごみ処理施設見学ツアー等のイベントを開催して、学ぶ機会を作る。

3. 情報発信や既存の取組の周知

S N S やホームページを利用した節電イベントや半田市のごみの量などの数値の情報
発信、既存の半田市の取組みである剪定枝粉碎機の有効活用、バイオマス発電の見
学会の実施、資源回収やマイルポはんだ、生ごみ処理機購入補助金などの周知をする。

4. 公共施設を活用した 3 R の場所づくり

公民館を活用した 3 R（リデュース、リユース、リサイクル）の場所づくりを行い、資源
回収や生ごみ処理の説明や設備づくり、まだ使えるものと使いたい人とのマッチングをする。
また、案内の多言語化・ピクトグラム化等を行い、世代や国籍に関わらず交流できる場と
して公民館を活用する。

令和 6 年 1 月 3 0 日

半田市長 久世 孝宏 様

H A N D A 市民討議会実行委員会
委員長 松 石 陽 介

5. 「HANDA市民討議会 2023」の次回に向けた検討事項

以下に記載のアンケート結果等から、今回の市民討議会については、概ね順調に進行ができたと考えるが、今後は選定テーマによって、事前勉強会の実施内容や、討議方法等について検討する必要がある。

一部、参加者が年齢や知識量の差により発言しにくい場面がみられたため、ファシリテーターが参加者とのコミュニケーションをとり、発言を促すことが必要であるとする。

(1) アンケート結果

1. 市民討議会の運営についてお聞かせください

Q 1. 市民討議会の運営について、感想や印象をお聞かせください

	1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない	5. そう思わない
市民討議会に楽しみながら参加できましたか	28 (67%)	6 (14%)	1 (2%)	4 (10%)	3 (7%)
進め方に関する説明は十分だと思いましたか	22 (53%)	10 (24%)	1 (2%)	8 (19%)	1 (2%)
アイスブレイクで話しやすくなりましたか	14 (33%)	14 (33%)	7 (17%)	3 (7%)	4 (10%)
事前勉強会で、討議がおこないやすくなりましたか	16 (38%)	12 (29%)	9 (21%)	4 (10%)	1 (2%)
討議のテーマは、話しやすかったですか	18 (43%)	13 (31%)	5 (12%)	5 (12%)	1 (2%)
討議を通して自分の考えが深まりましたか	23 (55%)	9 (21%)	3 (7%)	4 (10%)	3 (7%)
グループ発表は、全員の意見が十分反映されていましたか	20 (48%)	12 (28%)	3 (7%)	2 (5%)	5 (12%)
グループ発表で、他のグループの提案内容がわかりましたか	18 (43%)	14 (33%)	4 (10%)	3 (7%)	3 (7%)
グループ提案に投票を行い、上位3つを選ぶ方法はよいと思いましたか	15 (36%)	12 (29%)	8 (19%)	3 (7%)	4 (9%)
市民討議会は市民の声を反映させるのに有効な手法と感じましたか	21 (46%)	15 (32%)	4 (9%)	2 (4%)	4 (9%)

初めて参加する市民が、討議会の目的を理解し、テーマについて一定の知識を得た上で、参加者同士が討議しやすくなるように、事前勉強会や討議についての説明の実施、討議前のアイスブレイクや討議をグループごとの少人数での実施等を行った結果、テーマへの理解や話し合いのしやすさ、討議や発表の方法等について概ね良好な感想が得られた。

Q2.グループごとの話し合いは、円滑に進みましたか

1.円滑に進んだ	23 (56%)
2.やや円滑に進んだ	15 (36%)
3.どちらともいえない	1 (2%)
4.やや行き詰まったときがあった	1 (2%)
5.何度も行き詰まった	1 (2%)
6.その他	0 (0%)
未記入	1 (2%)

【自由記述】

(ファシリテーター)

進行が良かった。/発言誘導、意見取りまとめが不十分。

(グループ)

6人で適正であると感じる。/4～5人に人数を減らしてもよい。/年齢や属性が偏っていて発言しづらい。/話しやすかった。/グループ内の人の立場がバラバラで話の深堀ができない。多少話がそれたりすることがあったが、逆に内容が深まることもあった。

(テーマ)

テーマが抽象的であるため、具体的に絞ると良い。/面白い企画だが、政策の提言となると少しハードルが高い。

(進行等)

まとめることを予め伝えられている方が話を詰めやすい。/時間が短い。/討議会は1日だけでなく2日ほしい。/洗い出しを短くしてまとめの時間を長くしてほしい。/机を減らしてコンパクトな距離感にした方が話しやすい。

9割の参加者がグループの話し合いが円滑に進んだと回答しており、グループの人数やファシリテーターの進行、時間配分等について意見がでた。

Q 3. 市民討議会ではじめて顔を合わせる市民との会話について、どのように感じましたか（複数回答可）

1.さまざまな考え(発想)が聞ける楽しさ	32 (32%)
2.さまざまな世代の意見が聞ける楽しさ	41 (42%)
3.同じ半田市民としての共感や連帯感	15 (15%)
4.はじめて会う人との会話における抵抗感	6 (6%)
5.意見を言うのになれておらず、話しにくい感じ	4 (4%)
6.その他	1 (1%)

【その他意見】

異職種の方との考え方の違いが面白い。

さまざまな世代の意見や考えが聞ける楽しさを感じた参加者が多く、全体として前向きな感情を抱く参加者が多かった。

Q 4. 事前勉強会（11/4）の開催時間についてどのくらいの所要時間が望ましいと思いますか

1. 1 時間程度	0 (0%)
2. 2 時間程度	10 (22%)
3. 3 時間程度	28 (61%)
4. 4 時間程度	2 (4%)
5. 5 時間程度	2 (4%)
6. その他	3 (7%)
未記入	1 (2%)

【その他意見】

テーマによる。/短い。/長い。/開始時間を遅くしてほしい。/ 3 ～ 4 時間で 2 ～ 3 日。

今回同様の 3 時間を希望する参加者が最も多く、ついで 2 時間を希望する参加者が多かった。

Q 5. 討議会（11/25）の開催時間についてどのくらいの所要時間が望ましいと思いますか

1. 2 時間程度	0 (0%)
2. 3 時間程度	0 (0%)
3. 4 時間程度	10 (24%)
4. 5 時間程度	23 (55%)
5. 6 時間程度	7 (16%)
6. 7 時間程度	0 (0%)
7. その他	2 (5%)

【その他意見】

後日に数時間。/ブラッシュアップする時間や機会、フィードバックをもらう機会が欲しい。

今回同様の 5 時間を希望する参加者が最も多く、まとめの時間にもう少し時間を要するという意見もあった。

Q 6. 今後の市民討議会でどのようなテーマを希望しますか

(ゼロカーボン)

今回発表したものを深堀、実行。/特に実現可能なテーマ（節電・節水、公共交通機関の利用率増加等）

(教育)

英語教育/引きこもり/若者支援/全世代の「生きづらさ」解消

(子育て)

子育て支援

(少子高齢化対策)

人口減少問題/介護関連/免許返納に対する公共交通機関サービス

(まちづくり)

防災/地域コミュニティ/環境美化/健康なまちづくり/渋滞問題/公共交通機関/コミュニティバス
/公共施設の場所/企業誘致/跡地活用

(プロモーション)

イベント/観光産業/新キャラクター提案

(その他)

多様性社会/女性の権利/財政・税金/福利厚生/生活と直接関係するテーマ/食品ロス/
地域や市民に分かるようにしていくテーマ/市民に募るテーマ

Q7. グループの提案を提言としてどのように取りまとめたらよいと思いますか

(全て提言)

全て提言としつつ、内容は本職の人が見て市政に反映するか判断する。/全グループの良い点をまとめて提言。/一番伝えたいことを一言でまとめる。

(順次付け)

今回同様 3 位までを提言とする。/ 1 位を提言とする。/上位 3 つを選んだ後に市が選ぶ。/類似内容をまとめたうえで投票して 1 位を決める。

(実行可能性の考慮)

市役所 (= 専門家) の見解を加えて取りまとめ。/具体的な効果と費用を鑑みて行政で検討。

(実行・改善)

今回の内容を市民へ周知・公表する。/市民に循環・還元する。

(その他)

順位は決めなくていい。/グループにする必要性がわからない。/どの意見も最もであるため、一つにまとめるのが難しい。

2. 意識の変化等についてお聞かせください

(1) 市政への関心について

Q1. 討議会への参加動機を教えてください

1.市民討議会が興味深かった	24 (53%)
2.テーマが興味深かった	6 (13%)
3.日程的に都合がよかった	5 (11%)
4.市のために協力したかった	2 (4%)
5.市民の役割として大切だと思った	2 (4%)
6.新しいことにチャレンジしたかった	5 (11%)
7.紙が届き参加しなければならないと思った	0 (0%)
8.日頃から市に言いたいことがあった	0 (0%)
9.その他	2 (4%)

【その他意見】

どんな人が参加するのか興味があった。/選考で選ばれたこと、自分の経験として参加してみたかった。

市民討議会に興味があった参加者が最も多く、次にテーマに興味があった、新しいことにチャレンジしたかった、日程的に都合がよかったという参加者が多かった。

Q2. 市民討議会に参加して、市政への関心が高まりましたか

1.非常に高まった	11 (24%)
2.多少高まった	32 (70%)
3.どちらともいえない	3 (6%)
4.あまり変化しない	0 (0%)
5.変化しない	0 (0%)

9割を超える方が市政への関心が高まったと回答した。

Q3. 今後、まちづくりにどのように参加(行動)したいと思いますか（複数回答可）

1.自治区活動	12 (15%)
2.NPO、ボランティア活動	25 (31%)
3.計画策定の委員等として参加	14 (17%)
4.市議会等の傍聴	7 (9%)
5.自分の考えを市に伝える（パブリックコメント、市長への手紙等）	10 (13%)
6.参加しない	1 (1%)
7.その他	11 (14%)

【その他意見】

討議会のようなものがあれば参加したい。/参加できる場合には参加したい。/エコクラブに行きたい。/個人事業をしたい。/新たに活動しやすいところを作る。/内容による。/企業の参加が必要だと思う。/引っ越すため参加できない。

多数の参加者がまちづくりへの参加に対して積極的で、ボランティア活動など取り組みやすいものへの参加意欲が伺える。

Q 4. 今後、市民討議会実行委員会に参加したいと思いますか

1.参加したい	38 (83%)
2.参加したくない	6 (13%)
未記入	2 (4%)

(2) ゼロカーボンの取組への関心について

Q 1. ゼロカーボンへの取組についての関心が高まりましたか

1.非常に高まった	17 (37%)
2.多少高まった	27 (59%)
3.どちらともいえない	1 (2%)
4.あまり変化しない	1 (2%)
5.変化しない	0 (0%)

9 割を超える方がゼロカーボンへの取組の関心が高まったと回答した。

Q 2. 今後、ゼロカーボンへの取組について行動しようと思いますか

1.積極的に行動しようと思う	18 (39%)
2.できれば行動しようと思う	26 (57%)
3.どちらともいえない	2 (4%)
4.あまり行動しようと思わない	0 (0%)
5.行動しようと思わない	0 (0%)

9 割を超える方がゼロカーボンへの取組について行動意欲があると回答した。

Q 3. Q 2で「1.積極的に行動しようと思う 2.できれば行動しようと思う」を選択した方に質問です。どのような行動をしようと思いましたか。

(節電・節水)

エコ家電、エコカーの購入。/電力会社を見直す。/LEDに変える。

(ごみ減量)

ごみの削減。/生ごみ処理機の有効活用。/ペットボトル削減・自販機の使用を控える。/マイボトルを使う。/ごみの分別をする。/ごみ拾いをする。/マイバック持参。

（食品ロスの削減）

食べきれる量の食品を買う。/食べ残さない。/近所の人と消費期限が近い食べ物交換。/
野菜の皮も使う。/季節のものを買う。/家庭菜園をする。/生ごみを堆肥に使用。

（車の使用減）

公共交通機関の利用。/徒歩での移動をする。/自転車通勤。/宅配回数削減。/共用に
よる使用料金削減。

（リサイクル等）

長く使えるもの・服を買う。/着なくなった服はフリーマーケットに出す。/古着や中古品を買う。

（その他）

市の政策に協力する。/CO2 の現状を把握する。/家族や友人、勤務先や関係団体への
ゼロカーボンの知識の共有。/企業やマスコミへの発信が課題。/自分にできることから始める。
/今回の参加でより関心が深まった。

**Q 4. 今後、ゼロカーボンへの取組を含めた環境施策に関するアンケート調査などのご
協力を依頼する際に、市民討議会参加承諾書等でいただいた個人情報（住所、氏名、
電話番号、メールアドレス等）を利用させていただくことにご承諾いただけますか**

1.参加したい	44 (96%)
2.参加したくない	2 (4%)

【承諾しない理由】

引越しのため。（２人）

3. その他

市民討議会全体について、ご意見、ご感想をご記入ください

- ・第１回目の討議会に参加できてとても良かったです。市の活動を知らないことが多かったの
で、もっと調べて活用していけたらなと思いました。
- ・市政の自分事化につながるいい取り組みだと思いました。自分たちの提言が市政に反映さ
れた実感があると、市への愛着や関心アップにつながると思います。
- ・この意見が実現するか見守っていきたいです。お疲れ様です。
- ・提言、結果など後追いをしっかりやってほしい。
- ・とても有意義な取り組みであった。しかし、この活動自体が市民にはまだ十分には伝わって
いないので、広報活動が必要だと感じた。あとは、討議結果が市政に反映されて効果が出
ればうれしく思います。

- ・今後もこのような企画は市政PRにもつながります。ぜひ続けてください。
- ・市民討議会が一回で終わらず、今後も続けていける環境を作してほしい。
- ・このような会が市民全体に広がっていけば市民参加型の良い市が築けると思います。
- ・環境や司会進行もとても良く、今後もぜひ開催してほしい。
- ・25日のみの参加となってしまいましたが、楽しくテーマについて考えながらグループ討議をさせていただきました。参加する前はどのような会かわからず不安も多くありましたが、今回の様子が伝わり、一人でも多くの参加が楽しくできるといいなと思いました。
- ・皆様お疲れ様でした、とても有意義な時間が過ごせました。ありがとうございました。
- ・討議会というものが行われていたということを知ることができてよかったです。
- ・こういった市民参加の取組は大変良いことだと思いました。ありがとうございました。
- ・まずはこのような機会を設けてくださったことは今までの半田市にはないことだと思う。
- ・この討議会に参加して、より地球環境のことを考えるようになりました。
- ・市民討議会に参加していなければゼロカーボンについても考えていなかったのでもいい機会になりました。
- ・討議会を通して、自分にカーボンニュートラルへの意識が少なく感じました。
- ・新しいことを知るきっかけと、普段ならお話をしない方たちとの交流がすごく新鮮で楽しかったです。参加でき良かったです、ありがとうございました。
- ・世代を超えて様々な意見を知れて勉強になりました。
- ・普段お話することがあまりないメンバーで話し合いをすることで自分にはない考えが聞けて、とてもいい勉強になりました。環境や市政についても考える、触れるきっかけとなってよかったです。
- ・良いチームに入れていただけて楽しく参加できました。また別の機会があれば参加したいです。
- ・様々な世代の人の意見が聴け、勉強になった。今後も同様の活動を進めてほしい。
- ・とても貴重な経験になった、多角的な視点からの意見に触れられて面白かった、テーマについての興味・関心が高まった。
- ・とてもいい機会と感じました。世代性別の垣根なく意見交換できたのが良かった。
- ・若い方の中で意見を聴けて良かった。初めての討議会で緊張した。
- ・人間社会は協助、助け合いの要素が強いと思うが、普段市民の多くはそれぞれの仕事に就いており、その道のスペシャリストもいる。その意見を聞くことは、行政が苦手なことを助けるのに力になると思う。
- ・バイオマス発電の「見学会」を今回のメンバー対象に企画してもよいのではないかな。知らなかったことを新しく知ることになったので、良い機会になった。実行委員に興味あり。

（提言）

- ・グループだけでなく個人的な意見も言いたい、聞いてほしい時もあった
- ・今回このような貴重な場、機会、お時間をくださりまして、ありがとうございました。まとめていく中で×となった意見や考え方の方が重要なキーワードや核心をつくものが多いです。ぜひそちらもお時間が許したらご覧いただけたらと思います。（だんだんとありきたりな意見に収束してしまい、イノベーションにはつながっていかない。）まずは、みんなで楽しく、から少しずつ始めていこうと思います。

（運営）

- ・テーマが抽象的。
- ・テーマをはじめから各チームに振り分けておいた方が深い答えが出ると思う。時間が少ない。投票制について、視覚的に見えやすくなりすぎてしまう点から、次回からシールによる投票制はなくて良いと思う。
- ・ベルの音が演歌大会の不合格の音に似ているため、違う音に変えた方がいい。
- ・事前勉強会の際、テーブル毎にモニターを置いてほしい。
- ・テーブルの人と人との間を詰めておけば、和気あいあいとやれると思う。
- ・スタッフ（聴講者）が多く、圧力を感じる、見られている感が強い。できれば一緒に参加されると良いと思います。
- ・勉強会について、若い方（20代）が少なく、年齢に偏りがあると感じた。
- ・記名式アンケートと無記名式アンケート部分を分ける形式にしたらい。
- ・お弁当も付けばよかった。
- ・勉強会以前に資料を送付してもらえればここで勉強できると思う。
- ・3連休の中日に実施するのは少し困りました。これからも市をよくする仕組みを作っていただけると嬉しいです。
- ・じゃんけん列車をする意味はあったのか、初対面の人に触れなければいけないのは嫌だったし、配慮がない、次回には参加しないと思います。完全に運営の自己満。昼食や飲み物も拘束時間が長いのにないのはどうかと思いました。写真も何に使うか説明もないまま取られるのは不快だし、許可を取ってほしい。
- ・大人の価値観や見方だけになってしまうので、世代別、多世代で行うとより良いと思いました。

（ゼロカーボン）

- ・ゼロカーボンの周知は市民全員に伝わるようにしていくための資料や冊子のことを考えてほしい。
- ・牛のゲップが自然破壊につながりやすいので、牛が気持ちよく飼育できるよう緑を増やすプロジェクトなんかがあってもいいと思う。

（今後について）

- ・もっと子育てしやすい町になったらいいと思う。
- ・市民討議会で使われている税金が見える化するといい（人件費など）。
- ・小中校生の若者討議会があっても未来のために良いかと思いました。

6. 実行委員感想

私は市民討議会準備委員会からの公募による市民委員で、まず、市民討議会の前例が解説されている「市民の政治学」という図書を読み、討議会についてイメージを持ちました。

実行委員会では市民討議会に関する知識を共有する中で、テーマの決定が問題でしたが、半田市が抱えている問題で、市民の皆さんにも関心のあるテーマについて、提案することができました。無作為抽出で選ばれた市民の皆様から、どのような意見が出され、それをまとめ、発表するのか予想できませんでしたが、第2回目以降につながる発表であったと思います。

(竹内康博)

半田市において、市民の声を市政に直接反映させる一つの手法として準備してきた市民討議会ですが、初回にもかかわらず、多くの市民の方にご参加いただきました。また、当日は活発な議論を経て、未来へつながる重要な提言を得ることができ、半田市民の参画意識の高さを肌で感じることができました。ご参加いただきました市民の皆様、ご協力いただいた関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。今後、この市民討議会が新しい民主主義の手法として地域に根付くために、より一層の市民の皆様のご参加とご協力をお願いします。

(市野文彦)

準備委員会から委員として参加し、事前勉強会・市民討議会を迎えるまで検討を重ねて参り、半田市の新たな取り組みに参画できた事とても嬉しく思います。あらゆる年代の市民の皆様の、年代・性別・置かれている環境によつての目線の違いがとても新鮮で、発表を聞き、無限の可能性を感じました。今後、継続して開催されて行くと思いますので、もっと多くの方に市民討議会を知っていただき、地域の課題解決の為に積極的に参加していただくと嬉しいです。貴重な経験をありがとうございました。

(間瀬喜弘)

ゼロカーボンという難しいテーマでしたが、参加者の方はとても意欲的な方が多く、勉強会に真剣に取り組んでいる様子で安心しました。討議会もたくさん話し合いができています。発表も感銘しました。今回は第1回目で探りながらの開催とはなりましたが、今後、より市民の為になるような開催ができるように努めて参ります。皆様ありがとうございました。

(前浪李奈)

私自身が市民討議会とはどういったものなのかというところから始まり、カーボンニュートラルという馴染みのないテーマでしたが、半田市がゼロカーボンシティはんだビジョンを掲げていることを知り興味がわきました。参加者が集まるのが心配でしたが、さまざまな年代の方が参加し、活発な意見が飛び交い、有意義な2日間となりました。この経験を活かしてさらに地域活動に励みたいと思います。ありがとうございました。

(中島聡一)

タイムスケジュール

◆事前勉強会（令和5年11月4日（土）9：30～）

時間	内容
9：30	開会、実行委員長・半田青年会議所理事長・半田市長挨拶
9：40	討議会説明
10：00	アイスブレイク
10：15	情報提供①
10：55	休憩
11：05	情報提供②
11：35	情報提供③
11：55	ワークショップ
12：15	本日のまとめ、次回の説明
12：30	閉会

◆討議会（令和5年11月25日（土）9：30～）

時間	内容
9：30	開会、実行委員長挨拶
9：40	チェックイン、アイスブレイク
10：00	討議①
11：00	休憩
11：10	討議②
12：10	休憩
13：10	アイスブレイク
13：20	討議③
14：20	休憩
14：30	発表
15：05	発表資料閲覧
15：15	投票
15：20	休憩
15：30	投票結果発表
15：40	半田青年会議所理事長挨拶、半田市長挨拶
15：45	閉会
15：50	全員写真撮影

□ 本日の事前学習の内容について(全体の流れ)

1. 地球はどうなっているのか

- ・なぜ「地球沸騰化」なのか

(1) 地球の気温の長期的な変化

- 「地球温暖化防止活動推進センター」

<https://www.jccca.org/>

- 「国立環境研究所地球環境研究センター」

https://www.cger.nies.go.jp/ja/library/qa/qa_index-j.html

- 「気象庁地球温暖化ポータルサイト」

https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/index_temp.html

- 「環境省 Cool Choice」

<https://ondankataisaku.env.go.jp/communicator/>

(2) 日本の気温と気候の長期的な変化-何が起きているか

(3) 地球はこれからどうなるか

- ・気温、気候変動、海面水位、海氷面積、降水量など

(4) 地球温暖化はなぜ起きるのか

(5) 二酸化炭素の排出状況

(6) 地球温暖化防止のための世界の取り組み

- ・気候変動枠組条約、パリ協定

(7) 日本はどう取り組もうとしているのか

(8) ゼロカーボンとは

2. 半田はどう取り組もうとしているのか-「ゼロカーボンシティはんだビジョン」の概要

(1) 二酸化炭素排出量の現状

(2) 2050 年の半田のイメージ、ビジョン

(3) ゼロカーボン達成に向けて取り組むこと、取り組めること

(4) 2030 年までに重点的に取り組むこと

(5) 2050 年に向けたロードマップ

(6) シーンにみた今すぐ取り組みたいこと

3. ゼロカーボンシティ達成に向けて大切なこと-SDGs の考え方を援用して

(1) SDGs の考え方

(2) 将来ビジョン

(2) バックカスティング、フォワードカスティング

(3) 産業分野での革新的なイノベーション

(4) 知多半島での広域的な取り組みの可能性と必要性

(5) ゼロカーボンシティはんだに向けての野心的取り組みの例示

(6) いくつかの留意点

- ・環境・経済・社会の接点
- ・市民・企業・行政の協働

(7) 私たちが身近に取り組めることを検討する上でのいくつかのヒント

4. ミニワークショップ-討議会に向けての準備運動

○ 私ひとりでも取り組めること

○ 家庭で取り組めること

○ ご近所(コミュニティ)で取り組めること

○ 市全体として取り組めること

○ もっと広域で取り組めばいいこと など

5. 討議会に向けて準備することなど

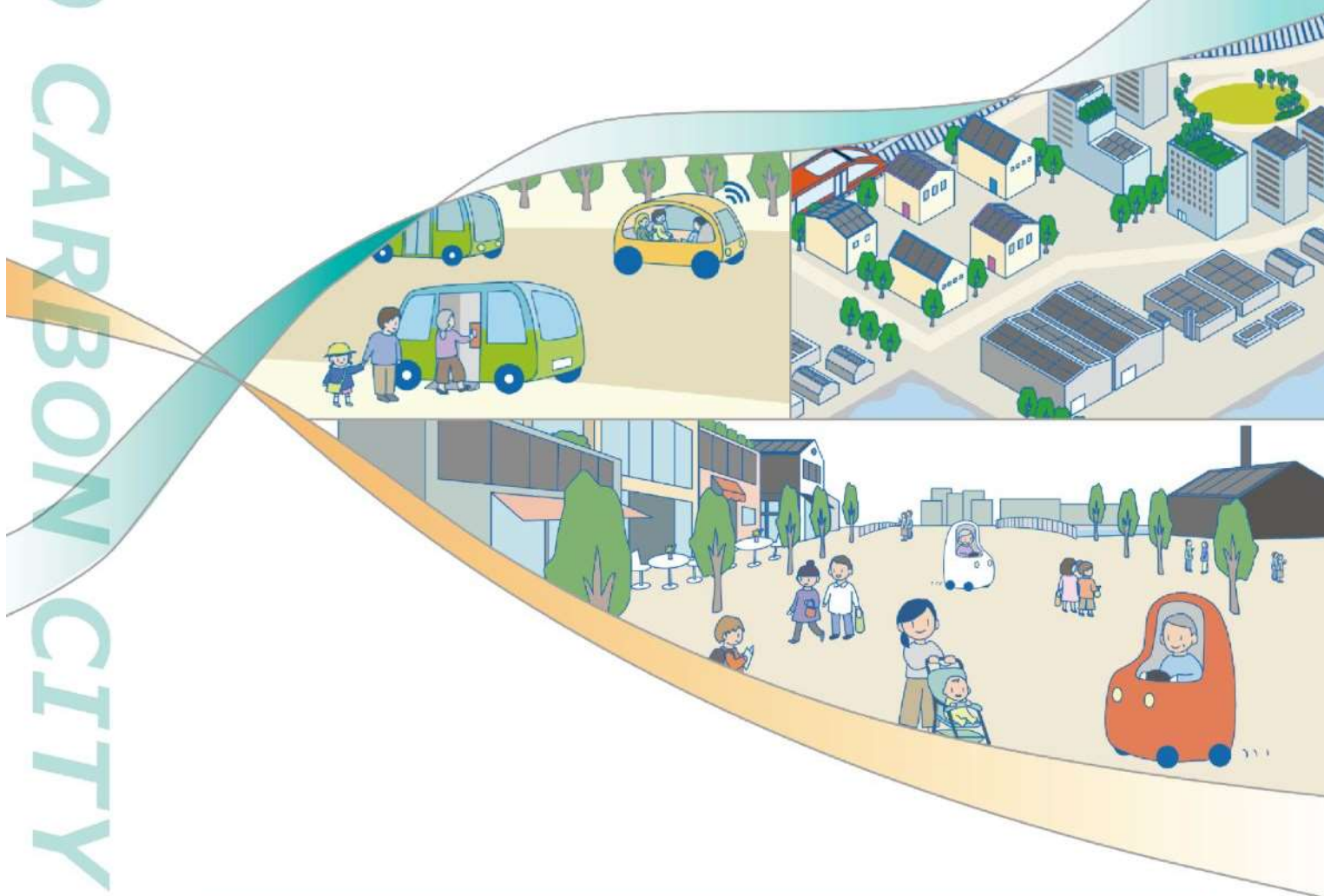
2050

ゼロカーボンシティ
はんだビジョン

概要版

令和 4 年 1 月
半 田 市

ZERO CARBON CITY HANDA



ゼロカーボン対策は、家庭やオフィス、まちなかの移動など、私たちの生活や行動と密接につながっています。

脱炭素シナリオを実現していくためには、それぞれの主体が主役となり行動や対策を実践すること、それらの対策が進んでいくための各主体や自治体などによる支えが必要であり、この「自助、共助、公助」を重層的に進めていくことが必要なのです。

住宅や建物、公共施設やインフラは寿命が長いことを考えると、今このタイミングを逃せば、将来大きなツケが回ってくることは明らかなです。

脱炭素を実現した魅力ある半田市の将来ビジョンを展望し、半田市のポテンシャルを生かしなが
ら、戦略的に取り組みを進めていくための道筋を示します。

2050 年の将来ビジョン

「ゼロカーボンシティはんだ
ビジョン」とは？

近年、地球温暖化や気候変動が及ぼす影響が世界中で顕在化しており、将来的に気候変動を原因としたさまざまなリスクも懸念され、着実な対策が必要です。

地球温暖化を緩和させるべく、2050年ゼロカーボンシティの実現に向け、本市が目指すゼロカーボンシティの姿と、そこに至る道筋、取り組み方針を示す「ゼロカーボンシティはんだビジョン」を策定します。

省エネルギーの徹底と再生可能エネルギーの最大限の活用による気候変動対策を加速させ、ゼロカーボンに向けた市内機運の醸成とともに、全市一体の実行力をもって具体的な取り組みを実践していきます。

ゼロカーボンシティはんだビジョン

I ビジョン編

市民や事業者のみなさまと2050年の将来のビジョンを共有し、具体的な取り組みを実践していくための内容をわかりやすく記載

II シナリオ編

将来ビジョンをもとに、バックカスティングの考え方のもと、二酸化炭素排出量ゼロに必要な技術・施策・行動変容などの条件を、数値的に明らかにしています

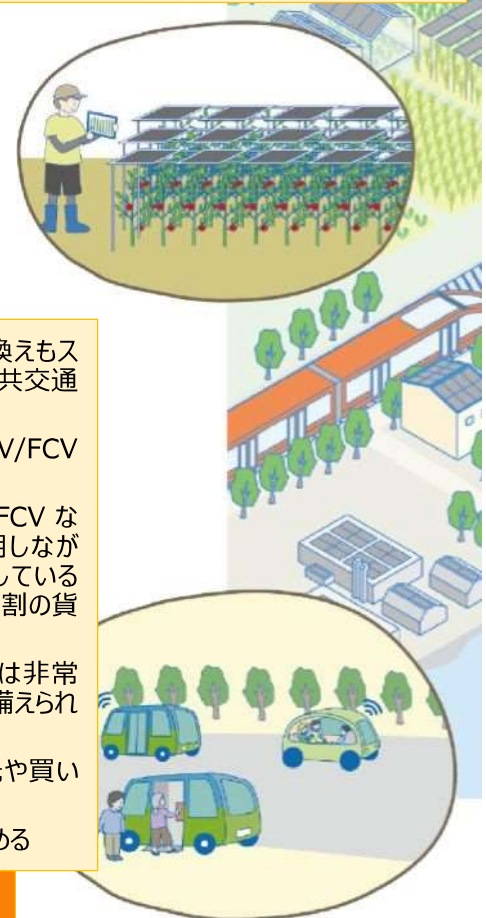
基本理念

**貴重な資源を賢く使い、
半田の魅力と快適な**

シーン別のありたい姿

営農型の太陽光発電に取り組んでいる
ハウス栽培に、太陽光や地熱など再生可能エネルギーが活用されている
市内のバイオマス資源のエネルギー活用が進んでいる
AI や ICT、ロボット技術を活用した農作業の効率化が進んでいる
市内で生産された新鮮な農畜産物が市内で消費され、輸送における環境負荷が少なくなっている

**美味しく
新鮮な食を
届け続ける
農業**



乗りたいときに乗れて、乗り換えもスムーズなモビリティも含めた公共交通ネットワークが利用できる

コミュニティバスは EV/PHEV/FCV 化され、グリーンに走っている

再生電力を用いた EV や FCV など、自動運転技術も活用しながら、ゼロカーボン・ドライブをしている（市内の全ての乗用車、8 割の貨物車が EV/PHEV/FCV）

車載用蓄電池は災害時には非常用電源として活用できるよう備えられている

EV カーシェアリングで、観光や買い物に気軽に行ける

MaaS で快適な移動を楽しめる

**誰でも
使いやすい
交通ネットワーク**

半田の魅力と快適な暮らしを醸成する

ブランド化
を目指す

美味しい食と自然環境
ゼロカーボン暮らし

自然のエネルギーを活かして、 暮らしを醸成する

自然の
エネルギー
を活かす

貴重な資源
を賢く
使う

自然の力を活かす
発酵技術

農・畜産関連の
地域内循環

水が手に入りにくい
地形

快適な 住まいと 暮らし

全ての建物の屋根に太陽光発電設備があり、自家発電自家消費が進んでいる

省エネ家電や高効率照明を使った生活をしている

断熱化により、体への負担が少なく、冷暖房に頼らなくていい住宅に住み、快適なライフスタイルを楽しんでいる

(建物の5割はZEH・ZEB基準に)

全ての家庭でエネルギー消費量の見える化による、自律的な環境行動をとっている

環境に配慮された製品(服や家具など)を利用した生活をしている

食品残渣をコンポストでたい肥化して家庭菜園で野菜を収穫している

魅力的で にぎわいのある 半田のまちなか

中心部には、ZEB化されて新しい設備と快適な空間を備えた魅力的な店舗があり、活気がある

運河や蔵など風情あるまちなみに人が集まり、中心部のまちなみとあわせて、半田のまちの魅力・ブランドになっている

一帯の建物がZEH・ZEB化され、都市空間の設備でもスマートライティング(ゼロカーボン街路灯)などが導入され、省エネと快適性が暮らしの中で同時に実現されている

市内で利用される電力の100%が再エネ由来になっている
飲食店で、半田のゼロカーボンによる農畜産物を美味しく料理して提供している

スマートで 高効率な 工場(産業)

工場などの屋根等に太陽光発電設備があり、自家発電自家消費が進んでいる

再エネ由来水素や合成燃料など燃料のカーボンニュートラル化、熱の有効利用が進んでいる

高効率な機器が導入されているとともに、AIやICT、ロボット技術を活用したプロセスの効率化が進んでいる

取り組み

1 自然の力を活かしてエネルギーを創り出す

- ・再エネ発電設備の最大限の設置拡大
- ・発電のメリットを強化する仕組みづくり



2 貴重なエネルギーを賢く使う

- ・住宅、業務施設の省エネ・高効率化
- ・産業部門におけるエネルギーの高効率化と燃料転換
- ・EV/PHEV/FCV の導入と普及・定着



3 エネルギーを地域内でめぐらせる

- ・農や食を通じたエネルギー・資源の地域内循環
- ・再生可能エネルギーの地産地消



4 自然やまちの魅力を高める

- ・高齢社会を見据えた移動しやすさの維持向上
- ・公園やまちなか等での緑豊かな空間の創出



5 市民、事業者とともに醸成していく

- ・エネルギーや環境問題について基礎知識を身に着ける機会の提供
- ・持続可能な協働体のマネジメント



シナリオ編のポイント

国の脱炭素政策にあわせて、本市の削減対策を進めることを前提とする

1. エネルギー消費量は、2018 年度から

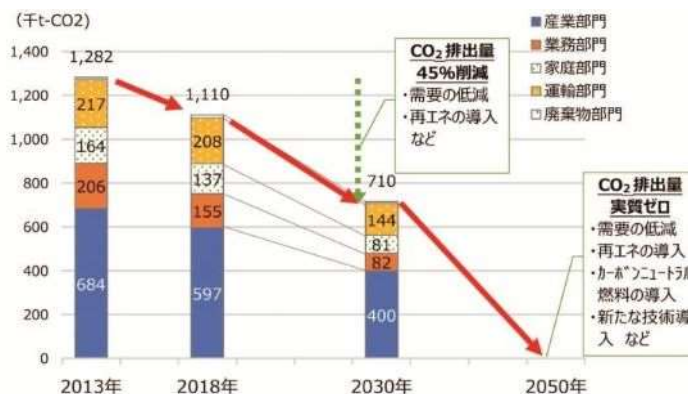
市域全体で …… **2030 年に 19%削減 2050 年に 40%削減** に向かう
 家庭やオフィスで… **2030 年に 30%削減 2050 年に 50%削減** に向かう
 工場 …… **2030 年に 13%削減 2050 年に 32%削減** に向かう

2. 電力の再エネ比率は、

市域全体で…… **2030 年に 40%、2050 年には 100%** に向かう

電化促進や新たなカーボンニュートラル燃料などの利用、熱の有効利用、新たな技術開発によるゼロカーボン対策の加速などを想定する

→ これにより、
**2030 年の CO₂ 排出量を
 2013 年度比で約 45%削減、
 2050 年に実質ゼロ**を目指します。



2030 年に向けた重点取り組み

1 公共施設等における率先した再生可能エネルギーの導入

- 公共施設等における太陽光発電の導入推進
- 公共施設の ZEB 化推進



出典：環境省
「ZEB PORTAL
(ゼブ・ポータル)」

3 再生可能エネルギーの地産地消スキームの構築

- エネルギーの地産地消スキームの構築
- EV/PHEV/FCV の積極的導入と地域の再生可能エネルギーの活用



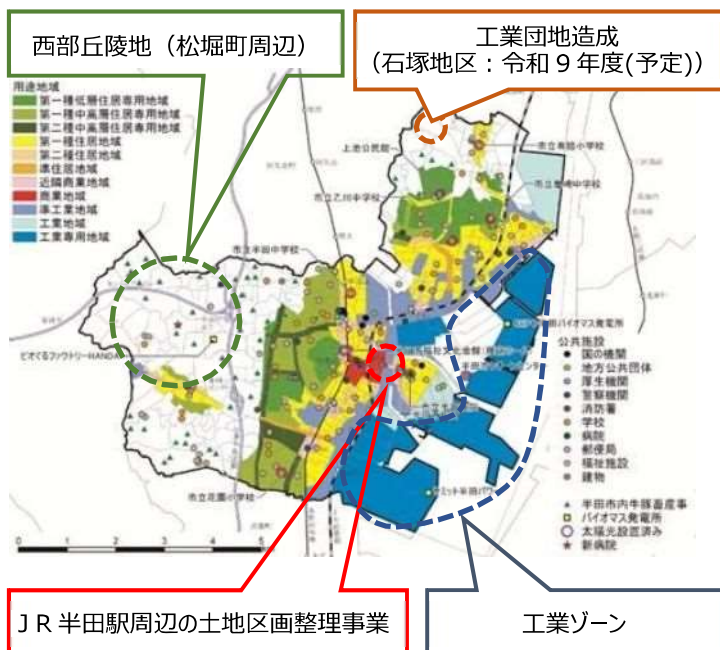
出典：環境省「Let's ゼロドラ!! (ゼロカーボン・ドライブ)」

2 ゼロカーボンを強みとする半田ブランドの創出

- ゼロカーボン促進エリアの展開
—本市の土地利用特性や面的な整備・開発の機会を捉え、地域ごとの特性を活かしたモデル地域として「ゼロカーボン促進エリア」の創出を図り、ゼロカーボンシティにふさわしい地域としてのブランディングに取り組みます。「ゼロカーボン促進エリア」について、国の脱炭素先行地域としての位置付けを検討します。

- 農・食循環によるブランド化の展開

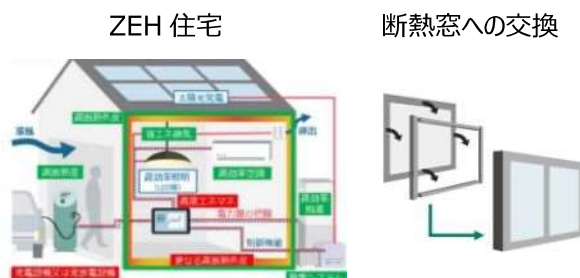
想定されるゼロカーボン促進エリア候補地の位置



4 みんなで進めるゼロカーボンの地域づくり

- 市民・事業者の取り組み機運の醸成
—本ビジョンへの賛同事業者の募集、「ゼロカーボン企業」として意欲的な企業を表彰する制度、市民への COOL CHOICE 運動の普及啓発やごみの減量化・リサイクルの推進など
- 地域事業者などと共に進めるゼロカーボン住宅・建築物
—市ホームページなどでの ZEH・ZEB の施工事例の紹介、地域の工務店などを対象とした技術セミナーの開催、優良 ZEH 住宅建設業者の指定など
- ごみの減量化・リサイクルの推進
- 広域連携によるゼロカーボンの地域づくり

ZEH のイメージ



出典：環境省「戸建住宅ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス (ZEH) 化等支援事業 (経済産業省・国土交通省連携事業)」
「集合住宅の省 CO₂ 化促進事業 (経済産業省連携事業)」

ロードマップ

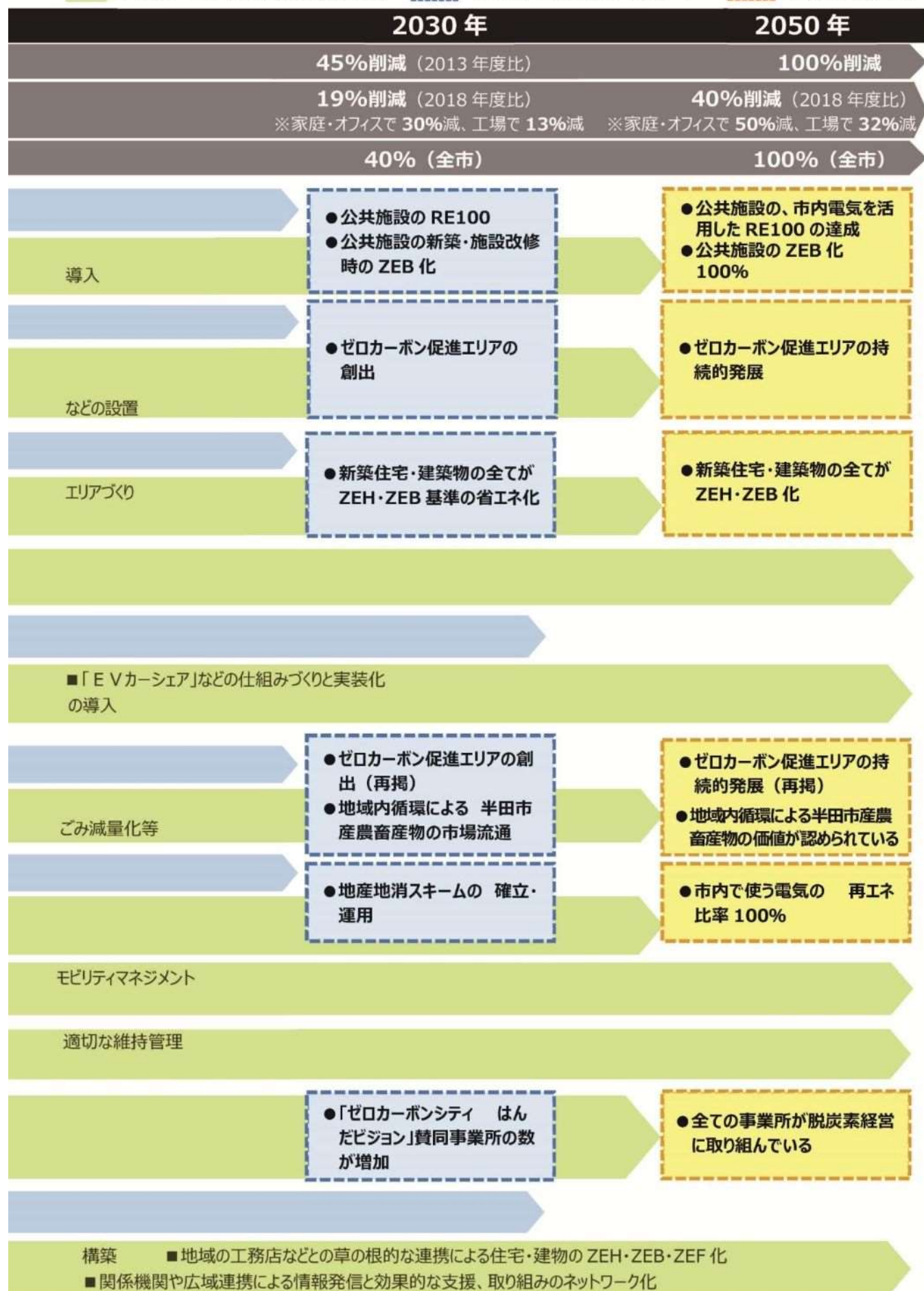
：2030 年に向けた重点取り組み

CO ₂ 排出量削減率		
エネルギー需要削減率		
再エネ目標（電力再エネ比率）		
自然の力を活かしてエネルギーを創り出す	再エネ発電設備の最大限の設置拡大	■ 公共施設等における太陽光発電の導入 ■ 公共施設の ZEB 化
	発電のメリットを強化する仕組みづくり	■ 市民や中小企業などへの情報提供・普及啓発（PPA（電力販売契約）等） ■ 公共施設、市街地ゾーン、工業ゾーン、低未利用地への再生可能エネルギーの
貴重なエネルギーを賢く使う	住宅、店舗、オフィス等の省エネ・高効率化	■ ゼロカーボン促進エリアの展開 ■ 導入ポテンシャルの高いエリアの「ゼロカーボン促進エリア」設定、発電設備の重点的な導入、周辺環境に求める配慮等の検討 ■ 避難所となる公共施設での災害時に利用できるエネルギー源となる、設備や蓄電池
	産業部門におけるエネルギーの高効率化と燃料転換	■ 地域事業者などと共に進めるゼロカーボン住宅・建物 ■ 住宅、店舗、オフィス等の ZEH・ZEB 化 ■ 市街地整備の機会を捉えたモデル ■ エネルギー管理による見える化 ■ 住宅・建築物における県産材の利用
	EV/PHEV/FCV の導入と普及・定着	■ 工場等の ZEF 化 ■ 共同配送、ICT・デジタル化等による物流の効率化 ■ 電化やカーボンニュートラル燃料への転換を促す情報提供や啓発
エネルギーを地域内でめくらせる	農や食を通じたエネルギー・資源の地域内循環	■ 広域連携によるゼロカーボンの地域づくり ■ 公用車も含めた積極的な EV/PHEV/FCV の導入と充電設備等の整備 ■ 小回りの利くグリーンな移動手段の整備 ■ 物流分野における EV/PHEV/FCV
	再生可能エネルギーの地産地消	■ ゼロカーボン促進エリアの展開（再掲） ■ 農・食循環によるブランド化の展開 ■ 地域内の廃棄物系バイオマスのメタン発酵による発電エネルギーの地域内循環 ■ 地域内循環による農畜産物や食のブランド化 ■ 食品廃棄物をはじめとした
自然やまちの魅力を高める	高齢社会を見据えた移動しやすいの維持向上	■ 地産地消スキームの構築 ■ 現在市外に流出している再エネ電力の市内活用による CO₂ 排出量の削減及び経済の地域内循環
	公園やまちなか等での緑豊かな空間の創出	■ 利用しやすい公共交通ネットワークづくり ■ 市民に公共交通利用を促す ■ 移動しやすい/暮らしやすい/環境にやさしい、コンパクトなまちづくり ■ 二酸化炭素吸収源対策としての緑地維持や公園緑化、自然共生地区等の ■ まちなかでの歩きたくなる木陰づくり
市民・事業者とともに醸成していく	エネルギーや環境問題について基礎知識を身に着ける機会の提供	■ 市内の児童や生徒へのエネルギー教育 ■ 市民や事業者のゼロカーボンの意識と行動変容の発信・展開 ■ ゼロカーボンへの意欲を高めるような市民や事業者への情報提供と意識啓発
	持続可能な協働体のマネジメント	■ 市民・事業者の取り組み機運の醸成 ■ 市民や事業者との連携による消費エネルギーの実態や変化を共有する仕組みの ■ 「ゼロカーボンシティはんだビジョン」に賛同する企業等との協働

：2050 年に向けた持続的な取り組み

：2050 年に向けたマイルストーン

：2050 年の目標



今すぐ取り組みたい！シーン別の取り組みイメージ

今ある技術で、できることからすぐにでも取り組んでいただきたいアクションを中心に集めました。取り組めるものからチャレンジしていきましょう。

住まいや暮らしの中で取り組むこと

■ エネルギーの節約で

- 身近な省エネ行動で節電する
- 宅配サービスをできるだけ一回で受け取る
- 水を大切に使う
- 省エネ家電製品を使う
- エネルギー消費量を見える化する

タイミングにあわせて

■ 食事で

- 食事を食べ残さない
- 食べきれない量を買う、保存を工夫して、食べられるものを捨てない
- 地元の食材を選択する
- コンポストや生ごみ処理機を活用する

■ ファッションで

- 気候に合わせて快適に過ごせる服装を選ぶ（クールビズ・ウォームビズ）
- 長く着られる服をじっくり選ぶ
- リサイクルショップ、古着の活用

■ 買い物で

- 環境配慮マークの付いた商品や、CO₂排出量を見える化している商品などの、脱炭素型の製品・サービスを選択する
- RE100・TCFD・SBT など脱炭素経営に取り組む企業などを、ESG 投資で応援する

■ 3R-リデュース、リユース、リサイクル

- マイバッグ、マイボトル等を使う
- 修理や補修をして、ものを長く使う
- 使わなくなったものは、フリーマーケットで売る
- ごみを減らす、ごみの分別処理をする
- シェアリングやサブスクリプションを利用する

■ 住まいで

- 再エネ電気に切り替える
- 太陽光パネルを設置して自家発電する
- 断熱・省エネリフォームして快適に過ごす
- 暮らしに木を取り入れる
- リモート勤務など働き方を選択する

タイミングにあわせて

移動において取り組むこと

- 出かける際は、徒歩や自転車で
- なるべく公共交通機関で移動する
- EV のシェアリングを利用する
- 電気自動車（EV）に買い替え、再エネ電力でゼロカーボン・ドライブにチャレンジ

タイミングにあわせて

家電製品の買い換えでどれだけ省エネ？

● 冷蔵庫	今どきの冷蔵庫は？	→10 年前と比べると約 40～47%の省エネ
● 照明器具	電球形 LED ランプは？	→一般電球と比べると約 86%の省エネ
● テレビ	今どきのテレビは？	→9 年前と比べると約 42%の省エネ
● エアコン	今どきの省エネタイプのエアコンは？	→10 年前と比べると約 17%の省エネ



ゼロカーボンシティはんだビジョン 概要版

令和 4 (2022) 年 1 月発行

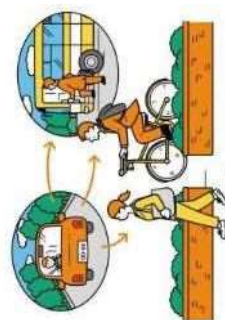
半田市市民経済部環境課

〒475-8666 半田市東洋町二丁目 1 番地

電話 0569-84-0627

URL <http://www.city.handa.lg.jp>

ひとりひとりができること ゼロカーボン アクション30



脱炭素社会の実現には、一人ひとりのライフスタイルの転換が重要です。

「ゼロカーボンアクション30」にできるところから取り組んでみましょう！

**エネルギーを
節約・転換しよう！**

- 1 再エネ電気への切り替え
- 2 クールビズ・ウォームビズ
- 3 節電
- 4 節水
- 5 省エネ家電の導入
- 6 宅配サービスができるだけ一回で受け取ろう
- 7 消費エネルギーの見える化

**太陽光パネル付き・
省エネ住宅に住もう！**

- 8 太陽光パネルの設置
- 9 ZEH（ゼッチ）
- 10 省エネリフォーム
窓や壁等の断熱リフォーム
- 11 蓄電池（車載の蓄電池）
・省エネ給湯器の導入・設置
- 12 暮らしに木を取り入れる
- 13 分譲も賃貸も省エネ物件を選択
- 14 働き方の工夫

**CO2 の少ない
交通手段を選ぼう！**

- 15 スマートムーブ
- 16 ゼロカーボン・ドライブ

食ロスをなくそう！

- 17 食事を食べ残さない
- 18 食材の買い物や保存等での食品ロス削減の工夫
- 19 旬の食材、地元の食材でつくった菜食を取り入れた健康な食生活
- 20 自宅でコンポスト

**3R（リデュース、
リユース、リサイクル）**

- 24 使い捨てプラスチックの使用をなるべく減らす。マイバッグ、マイボトル等を使う
- 25 修理や修繕をする
- 26 フリマ・シェアリング
- 27 ゴミの分別処理

**CO2 の少ない製品・
サービス等を選ぼう！**

- 28 脱炭素型の製品・サービスの選択
- 29 個人のESG投資

**サステナブルな
ファッションを！**

- 21 今持っている服を長く大切に着る
- 22 長く着られる服をじっくり選ぶ
- 23 環境に配慮した服を選ぶ

**環境保全活動に
積極的に参加しよう！**

- 30 植林やゴミ拾い等の活動

H A N D A 市民討議会 2023 参加者アンケート 令和 5 年 11 月 25 日開催

本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。市民討議会の運営等の改善のため、アンケートにご協力をお願いします。回答は質問項目ごとに該当する番号に「○」で囲んでください。

なお、回答いただきました個人情報、承諾いただいた質問項目を除き、市民討議会の運営以外の目的には使用いたしません。

グループ名 _____ 氏名 _____

1. 市民討議会の運営についてお聞かせください

Q 1. 市民討議会の運営について、感想や印象をお聞かせください

1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない 4. どちらかといえばそう思わない
5. そう思わない

市民討議会に楽しみながら参加できましたか	1	2	3	4	5
進め方に関する説明は十分だと思いましたか	1	2	3	4	5
アイスブレイクで話しやすくなりましたか	1	2	3	4	5
事前勉強会で、討議がおこないやすくなりましたか	1	2	3	4	5
討議のテーマは、話しやすかったですか	1	2	3	4	5
討議を通して自分の考えが深まりましたか	1	2	3	4	5
グループ発表は、全員の意見が十分反映されていましたか	1	2	3	4	5
グループ発表で、他のグループの提案内容がわかりましたか	1	2	3	4	5
グループ提案に投票を行い、上位 3 つを選ぶ方法はよいと思いましたか	1	2	3	4	5
市民討議会は市民の声を反映させるのに有効な手法と感じましたか	1	2	3	4	5

Q 2. グループごとの話し合いは、円滑に進みましたか

1. 円滑に進んだ 2. やや円滑に進んだ 3. どちらともいえない
4. やや行き詰まったときがあった 5. 何度も行き詰まった 6. その他

※改善提案などご意見、ご感想をご記入ください（任意）

討議ルール、グループ人数、ファシリテーターの進行など

Q 3. 市民討議会ではじめて顔を合わせる市民との会話について、どのように感じましたか
(複数回答可)

- 1.さまざまな考え(発想)が聞ける楽しさ
- 2.さまざまな世代の意見が聞ける楽しさ
- 3.同じ半田市民としての共感や連帯感
- 4.はじめて会う人との会話における抵抗感
- 5.意見を言うのになれておらず、話しにくい感じ
- 6.その他 ()

Q 4. 事前勉強会(11/4)の開催時間についてどのくらいの所要時間が望ましいと思いますか

- 1.1時間程度
- 2.2時間程度
- 3.3時間程度(今回同様)
- 4.4時間程度
- 5.5時間程度
- 6.その他 ()

Q 5. 討議会(11/25)の開催時間についてどのくらいの所要時間が望ましいと思いますか

- 1.2時間程度
- 2.3時間程度
- 3.4時間程度
- 4.5時間程度(今回同様)
- 5.6時間程度
- 6.7時間程度
- 7.その他 ()

Q 6. 今後の市民討議会でどのようなテーマを希望しますか

Q 7. グループの提案を提言としてどのように取りまとめたらよいと思いますか

投票で1位を選んで提言とする、全て提言とするなど

2. 意識の変化等についてお聞かせください

(1) 市政への関心について

Q1. 討議会への参加動機を教えてください

- 1.市民討議会が興味深かった
- 2.テーマが興味深かった
- 3.日程的に都合がよかった
- 4.市のために協力したかった
- 5.市民の役割として大切だと思った
- 6.新しいことにチャレンジしたかった
- 7.紙が届き参加しなければならないと思った
- 8.日頃から市に言いたいことがあった
- 9.その他 ()

Q2. 市民討議会に参加して、市政への関心が高まりましたか

1. 非常に高まった 2. 多少高まった 3. どちらともいえない
4. あまり変化しない 5. 変化しない

Q3. 今後、まちづくりにどのように参加(行動)したいと思いますか (複数回答可)

- 1.自治区活動 2.N P O、ボランティア活動 3.計画策定の委員等として参加
4.市議会等の傍聴 5.自分の考えを市に伝える（パブリックコメント、市長への手紙等）
6.参加しない 7.その他（ ）

Q4. 今後、市民討議会実行委員会に参加したいと思いますか

- 1.参加したい 2.参加したくない

（２）ゼロカーボンの取組への関心について

Q 1. ゼロカーボンへの取組についての関心が高まりましたか

- 1.非常に高まった 2.多少高まった 3.どちらともいえない
4.あまり変化しない 5.変化しない

Q 2. 今後、ゼロカーボンへの取組について行動しようと思いますか

- 1.積極的に行動しようと思う 2.できれば行動しようと思う 3.どちらともいえない
4.あまり行動しようと思わない 5.行動しようと思わない

Q 3. Q 2で「1.積極的に行動しようと思う 2.できれば行動しようと思う」を選択した方に質問です。どのような行動をしようと思いましたか。

[illegible]

Q 4. 今後、ゼロカーボンへの取組を含めた環境施策に関するアンケート調査などのご協力を依頼する際に、市民討議会参加承諾書等でいただいた個人情報（住所、氏名、電話番号、メールアドレス等）を利用させていただくことにご承諾いただけますか

- 1.承諾する 2.承諾しない

※承諾いただけない場合の理由をご記入ください（任意）

3. その他

市民討議会全体についてご意見、ご感想をご記入ください（任意）

ご協力ありがとうございました。

H A N D A市民討議会実行委員会